

## 免疫チェックポイント阻害剤に関する説明

使用するお薬

①オプジーボ ②ヤーボイ ③キイトルーダ ④テセントリク ⑤イミフィンジ

### 【作用】

免疫チェックポイント阻害剤は、がん細胞から免疫細胞である T 細胞に送られているブレーキをかける信号を遮断する作用や T 細胞そのものを活性化する作用をもっています。

### 【副作用について】

免疫チェックポイント阻害剤は、がん細胞によって抑えられていた免疫機能を再び活性化させます。そのため、免疫が過剰にはたらき過ぎることによって副作用があらわれる可能性があります。症状のあらわれ方には個人差がありますが、重篤なものの発現頻度は 1%未満のものがほとんどです。

治療期間中、また治療終了後半年～1年経過した後に起こることがあります。これらのお薬を使っていない期間も注意が必要です。

●点滴時の過敏症反応・・・点滴中や終了後に皮膚の痒みや発赤、喉のイガイガなどのアレルギーのような症状（点滴時の過敏症反応）が起こることがあります。2回目以降も出現する場合があります。

●間質性肺疾患・・・二酸化炭素と酸素を交換する（ガス交換）肺胞と肺胞の間に炎症や損傷が起こり、肺の組織が硬くなってガス交換がうまくできなくなることがあります。

初期症状（息切れがする・息苦しくなる、空咳、発熱）

●大腸炎・小腸炎・重度の下痢・・・初期症状（下痢（軟便）あるいは、排便回数が増える、ネバネバした便や血便、刺すような腹の痛み、吐き気・おう吐、発熱）

●重度の皮膚障害・・・初期症状（かゆみや体中が赤く腫れたり、発疹や水ぶくれがあらわれることがあります。また、ひどい口内炎、まぶたや眼の充血、発熱）

●重症筋無力症・・・筋力が低下し、まぶたが垂れ下がってきたり、食べ物が飲み込みにくくなったり、呼吸困難が起きたりすることがあります。初期症状（まぶたが重い、顔の筋肉が動きにくくなる、手足・肩・腰などに力が入らない、ろれつが回らなくなる、呼吸が苦しい、ものが飲み込みにくい、ものが噛みにくい）

●肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎・・・一般的に自覚症状はほとんどなく、検査値の異常によって見つかることが多い副作用です。初期症状（疲れやすい、だるい、発熱、白眼や皮膚が黄色くなる）

●甲状腺機能障害・・・体の新陳代謝を高める甲状腺ホルモンを作る甲状腺（内分泌器官）に障害が起こり、血中甲状腺ホルモン値が上昇したり、低下することで症状があらわれます。

初期症状（体がだるい、むくみ、寒がりになる、動作やしゃべりが遅い、汗をかきやすい、体重が減る、眼球突出、甲状腺のはれ、動悸、手の震え）

●下垂体機能障害・・・さまざまなホルモンのはたらきをコントロールする脳の下垂体（内分泌器官）に障害が起こり、下垂体ホルモンが低下することで症状があらわれます。

初期症状（疲れやすい、だるい、食欲不振、頭痛）

●副腎機能障害・・・副腎由来のホルモンが低下し、血糖値が下がることがあります。急性の場合は意識がうすれることがありますので、注意が必要です。

初期症状（疲れやすい、だるい、食欲不振、血圧の低下、意識がうすれる、吐き気・おう吐、発熱）

●1型糖尿病・・・膵臓からインスリンが分泌されなくなって、慢性的に血糖値が高くなることがあります。特に急激に血糖値が上昇した場合には命にかかわることがありますので、注意が必要です。

初期症状（口の中や喉が渇きやすい、水分摂取がふだんより多い、トイレが近い、尿量がふだんより多い、疲れやすい、だるい、吐き気、腹痛、意識がうすれる）

●腎機能障害・・・腎臓に炎症が起こり、機能が低下することがあります。症状が進行すれば命にかかわることがありますので、注意が必要です。

初期症状（むくみ、わき腹や背中の痛み、発熱、血尿、尿量の減少、吐き気・おう吐、下痢、体重増加）

●膵炎・・・膵臓に炎症が起こることがあります。

初期症状（腹痛、疲れやすい、だるい、背中が痛い、白眼や皮膚が黄色くなる（黄疸））

●筋炎・横紋筋融解症・・・筋炎や足の痛みの強い症状がでることがあります。

初期症状（だるい、全身の筋肉がこわばる、筋肉が痛む、手足に力が入らない（立ちあがりにくい）、手足のしびれ、発熱、尿の色が赤褐色になる）

●脳炎・髄膜炎・・・頭痛、おう吐、意識障害、けいれん、項部硬直（首の後ろが痛くなり曲げられなくなる）などの症状があらわれます。

●重篤な血液毒性・・・白血球の減少や貧血、出血傾向が起こる場合があります。

●心筋炎・・・心筋に炎症が起こる病気で、かぜのような症状（発熱、咳など）が起きます。

初期症状（発熱、疲れやすい、だるい、胸の痛み、息切れがする、筋肉痛、手足のむくみ、咳）

●結核・・・結核菌という細菌により引き起こされる感染症で、主にかぜのような症状（咳、発熱など）があらわれます。症状が進行すれば命にかかわることがありますので、注意が必要です。

●ぶどう膜炎・・・眼の中に炎症が起こることがあります。見え方の異常を感じたら、すぐに担当の医師に連絡してください。